みんなが納得する 周南市中心市街地の「まちの姿」 を目指して

・H24 年度の社会実験は、中心市街地活性化基本計画の「公園都市の創造の実現」（パークタウン構想）に向けた「空間演出のあり方」について検証を行っていますが、その「パークタウン構想」の考え方は、未だ十分に市民には浸透されていません。
・今後、「関係者全員が納得するまちの姿」を追求していくにあたっては、単に「社会実験を実施して終わる」のではなく、ビジョンや目的を明確にし、沿道商業者はもちろん、隣接するエリアの商業者やその他関係者等の合意を得ることが最大のポイントと考えます。
・すなわち、「歩行者優先道路化検討委員会」等を進めていくにあたっては、今回の社会実験を通して「確実に次に繋がる」地元の気運を醸成していくことが重要と考え、以下の視点を提案します。

■検討委員会等を進めていくにあたっての視点

視点１　関係者でビジョンを共有し、誰もが納得できるイメージをつくる

・周南市中心市街地では、「公園のような居心地のよいまち」を目指し、その実現の第一歩として「歩車共存のまちづくり」の社会実験が実施されました。しかし、その趣旨やビジョンについては未だ十分に市民に認知されているとはいえません。
・「どんな社会実験を行うのか」の前に、まずみんなで「どんな将来ビジョンを描くか」、そのために「なぜ社会実験が必要か」について、再度、関係者で話し合い、共有していくことが必要です。

視点２　プロセス設計を大切にし、関係者で共有する

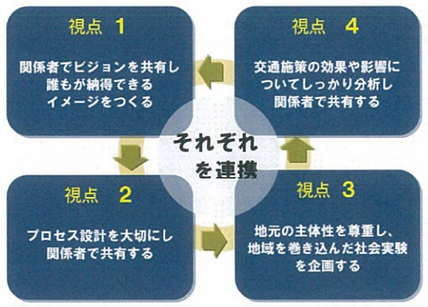
・平成 24 年度社会実験では、とくに沿道商業者の合意形成が課題とされ、まちづくりに関係するプレーヤー間（行政、市民、商業者等）の間の、いわば“情報ギャップ”が改めて「浮き彫り」となったと考えます。
・この“情報ギャップ”を埋める手段としては、商業者等が本当に気にしていることは何かを考え、どの主体に、どのような方法や手順でアプローチしていくか十分に戦略を練ること、関係者全員で「プロセス」を共有していくことが大切です。

視点３　地元の主体性を尊重し、地域を巻き込んだ社会実験を企画する

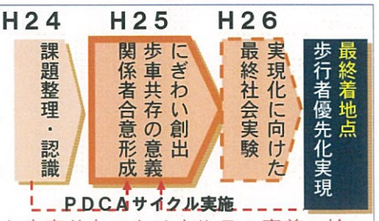
・上記の方策の一つとして「地元にも主体性をもって真剣に考えていただくこと」が必要となります。
・実施方針にも示したように、第２段社会実験としては、「恒常的なにぎわい創出」に向けて、空間演出と空間活用を一体的に捉え、沿道商業者が活用できる空間として社会実験を行うこと、具体的には、地元が自らその活用のあり方を探っていくような取り組みが重要となります。

視点４　交通施策の効果や影響についてしっかり分析し関係者で共有する

・交通施策の議論や市民への提示にあたっては、その施策が市民生活や経済活動にどのような影響を与えるか、またその意義についてわかりやすく提示していくこと必要です。
・本社会実験実施にあたっては、その効果や影響をしっかり分析し、関係者全員で共有していくことが重要です。



●「歩行者優先道路化検討委員会の設置、運営」について



・検討委員会では、前述の４つの視点を踏まえた議論、検討が必要となります。
・そのために、まず H24 年度社会実験の結果と課題を踏まえ、最終の「着地点」をしっかり確認しながら、事業化までのロードマップを描くこと。そして、PDCA サイクルを実践し、関係者全員の合意のもと、今回の社会実験につなげていくことが必要となります。
・H25 年度社会実験の獲得目標としては、とくに、①にぎわい創出と歩車共存のあり方やその意義の検証、②沿道商業者等の合意形成　が重要と考え、以下のように取り組んでいくことを提案します。

第１回	11 月初旬頃	●H24 社会実験の結果と課題、●先進事例と銀座通りでの可能性について、●今後の進め方（提案事項 社会実験実行委員会準備会の立ち上げ）等
第２回	１月中旬頃	●将来イメージとコンセプト、●一方通行及びトランジットモール化シミュレーション、●H25 社会実験事業計画（案）、●沿道商業者等の合意形成に向けて
第３回	２月下旬頃	●H25 社会実験事業計画（案）、●模型提示、●社会実験実行委員会の立ち上げ 等

●「沿道商業者等の合意形成に向けた支援」について

提案　地域の主体性を軸にした“賑わいとパークタウンの創造”を考える“場づくり”

・沿道商業者等の合意形成に向けては、どのような主体に、どのような手順でアプローチしていくか等の戦略のもと、検討段階から地域を巻き込み、主体性を尊重していくこと。すなわち、沿道商業者等が“自ら動く”社会実験を企画していくことが重要と考えます。
・すなわち、社会実験を成功させるためには、「資料作成」だけでなく、これまでの検討組織（実行委員会等）における検討経緯を大切にした、関係者での情報共有や継続的な話し合いが重要と考えます。（社会実験により影響を受ける範囲を対象とし、積極的に空間利用を希望する有志等が自由に参加できる場を提案します。）
・弊社は、これまでの地元との繋がりや実績を活かし、その「場づくり」として、前実行委員会等をベースとした（仮称）「社会実験実行委員会準備会」（将来の社会実験実行委員会）をできるだけ早期に立ち上げることを支援し、検討委員会と密接に連携させながら進めていくことを提案します。

（仮称）「社会実験実行委員会準備会」の構成イメージ【提案】

・(株)まちあい徳山
・建築士会山口支部まち塾
・H23 年度 WS 参加者代表者
・徳山商工会議所　・青友会

（以下の商店街商業者の有志）
・銀座通商店街　・一番街商店街
・銀南街商店街　・中央街商店街
・みなみ銀座商店街　・PH 通り

・近鉄松下百貨店　・防長バス
・徳山大学　・徳山高専　・周南市
・その他（ぺぷる等市民活動団体）

第１回	11 月下旬頃	●H24 社会実験の課題、●将来イメージ、●沿道商業者の合意形成に向けて
第２回	１月下旬頃	●沿道商業者等が主体となる社会実験と主体へのアプローチ、●社会実験計画
第３回	３月上旬頃	●委員会検討案、●社会実験実行委員会の立ち上げと今後の進め方

②「交差点容量解析及び協議用資料作成」について

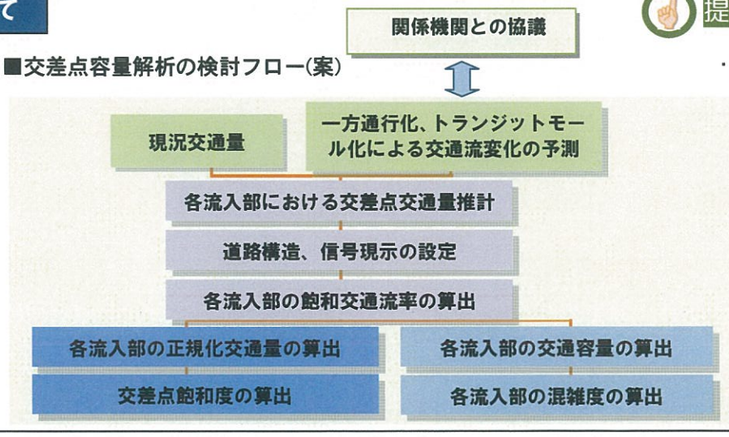
●交差点容量解析の検討フローとその留意点

・今後、銀座通りの一方通行化、トランジットモール化の社会実験を行うにあたって、それら実験によって発生すると考えられる交通面の課題について事前にある程度把握し、関係機関と事前に協議しておくことが必要です。

・そこで、別途調査される交通量データを使用し、各交差点についての現況の交差点容量解析（交差点飽和度と混雑度の検証）と将来一方通行化、トランジットモール化を行った際の交通容量解析について行います。

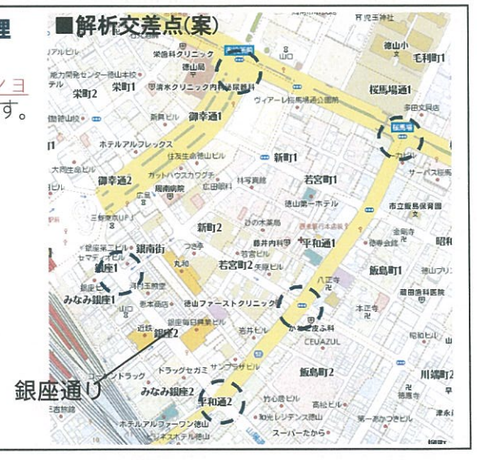
・検討フローは概ね右図のとおりとなります。

■交差点容量解析の検討フロー(案)



提案　わかりやすい交通シミュレーションによる整理

・解析にあたっては、必要に応じて交通シュミレーションソフトを活用し、視覚的に分かりやすく整理します。

■ソフトを活用したシュミレーション事例

■解析交差点(案)